

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	災害・貧困対策、教育・議会の改革テーマのシンポジウム参加
活動年月日	2017年5月11・12日
場 所	こくほ21 東京都新宿区市谷田町2-29
活動の相手方	第19期 自治政策講座 in 東京 <2017年> 災害・貧困対策、教育・議会の改革 (自治体政策学会)
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】「災害・貧困対策、教育・議会の改革」をテーマとした講座に参加することにより、議員としての資質向上と県政への提言等につなげる。</p> <p>【内容】 以下のプログラムに参加した。</p> <p>5月11日(木) [13:00~16:30]</p> <p>①問われる教育行政—小中学校へのアクティブ・ラーニング導入—5%の子どものアクティブラーニングと95の子どものアクティブラーニング 西川 純 上越教育大学教授</p> <p>②自治体の危機管理と復興体制づくり 青山 やすし 明治大学大学院教授・元東京都副知事</p> <p>5月12日(金) [10:00~16:30]</p> <p>③子どもの貧困にどう向きあうか「未来へつなぐあだちプロジェクト」の実践 秋生 修一郎 足立区政策経営部子ども貧困対策担当部長)</p> <p>④豪雨から社会を守る —自治体の責務 山田 正 中央大学理工学部教授</p> <p>⑤議会改革と民主主義の実現 江藤 俊昭 山梨学院大学教授</p> <p>【結果(成果)等】 アクティブラーニングに十の側面だけを見ていたが、逆の意見を聞きより理解が進んだ。 危機管理、子どもの貧困、議会改革など今次重要なテーマについて理解が深まった。今後の議会活動に活かしていく。</p>
関連領収書番号	5-6, 5-7, 5-8

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹


活動事項	自治体総合フェア2017 シンポジウム参加(最新の自治の実践を取材するため)
活動年月日	2017年5月25日
場 所	東京ビッグサイト<東京国際展示場> 西展示棟・西3ホール 〒135-0063 東京都江東区有明3-11-1
活動の相手方	自治体総合フェア2017(第21回)-地域社会に活力を与えるイノベーション- 一般社団法人 日本経営協会
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 自治体経営の革新を推進するとともに、地域住民が真に豊かさを実感できる魅力ある地域社会の実現を図ることを目的とする自治体総合フェアに参加し、情報収集し、議員としての資質向上と県政への提言等につなげる。</p> <p>【内容】 以下のプログラムに参加した。</p> <p>①第9回協働まちづくり表彰式・記念講演(事例発表) -アイデア・活力・イノベーション みんなで作るみんなの未来!- ○なんちゅうカレッジプロジェクト 中1,2年生及び地域住民を対象に地域住民が講師になって地域課題を一緒に学ぶ ○ゴミ分別 鹿児島家大崎町 リサイクル率を全国1位に ○認知症SOSネットワーク 大牟田市 吉澤恵美 認知所になっても安心して外出できる街に</p> <p>②ビッグデータで「出会い」サポート -愛媛県におけるIT婚活支援の取り組み- 岩丸裕健 愛媛婚活支援センター事務局長((社)愛媛県法人会連合会)</p> <p>③「イケてない街」を逆転せよ! -名古屋は地味? 退屈? 魅力なし? ナゴヤ・シティプロモーション最前線- 河井孝仁 東海大教授、名古屋市観光交流局田頭泰樹</p> <p>に参加</p> <p>【結果(成果)等】 なんちゅうカレッジは中学校と地域が一緒になって、地域の大人が子どもたちと一緒に学ぶというもの。教えるという上から目線ではなく、一緒に学ぶというところがポイント。大人から子供たちに近づく好事例と感じた。 どの講演も非常に居見深く、先進事例に学び、大いに刺激を受けた。とっとり県政にぜひ生かし、また、今後の議員活動等に反映させていきたい。</p>
関連領収書番号	5-13



第21回

自治体総合フェア2017



2017年(平成29年)
会期 10:00~17:00
会場 東京ビッグサイト 西展示棟・西3ホール
主催  一般社団法人 日本経営協会 NOMA

5月24日(水) 25日(木) 26日(金)

地域社会に活力を与えるイノベーション



同時開催：企業立地フェア2017 (西3ホール)

自治体カンファレンス 全体プログラム

A会場

西3ホール展示会場内 受講無料/事前登録制

5
/
24
水

A-1 10:30~11:30 ウェルカムスピーチ

地方創生、いま自治体は何をすべきか

一般財団法人 地域活性化センター

理事長 椎川 忍氏



A-3 14:20~15:10

健康指導をもっと身近に、わかりやすく！
—Apple WatchとiPhoneを活用した
関市の新しい健康指導活用術—

関市 市長公室 秘書広報課 経営戦略室
課長補佐 加藤 直之氏



A-2 13:00~13:50

主な地域情報施策の動向について

総務省 自治行政局 地域政策課

地域情報政策室長 稲原 浩氏

A-4 15:40~16:30

災害時における高齢者・障がい者の避難支援対策について
—避難勧告等に関するガイドラインの改訂にともなう
新たな展開—

跡見学園女子大学 観光コミュニティ学部

教授 鍵屋 一氏



5
/
25
木

A-5 10:30~12:30

第9回協働まちづくり表彰式・記念講演（事例発表）
—アイデア・活力・イノベーション
みんなで作るみんなの未来！—

東海大学 政治経済学部

教授 小林 隆氏



A-7 15:00~16:40 地域魅力創造・発信トークセッション

「イケてない街」を逆転せよ！
—名古屋は地味？退屈？魅力なし？ナゴヤ・シティプロモーション最前線—

東海大学 文学部
教授 河井 孝仁氏



名古屋市
観光文化交流局
ナゴヤ魅力向上
室長 田頭 泰樹氏



A-6 13:00~13:50

ビッグデータで「出会い」サポートします！
—愛知県におけるIT婚活支援の取り組み—

えひめ結婚支援センター

事務局長 岩丸 裕建氏



タレント
名古屋観光文化
交流特命大使
元SKE48
梅本 まどか氏



株式会社アサツー
ディ・ケイ
R&D局
専任局長/チーフ
R&Dディレクター
宇賀神 貴宏氏



5
/
26
金

A-8 11:00~11:50

AI（人工知能）で始まる半歩先の行政サービス
—ここまでできる。ヒトにない強みをどう活かすか—

一般社団法人行政情報システム研究所

調査普及部 部長 狩野 英司氏



A-10 14:20~15:10

実効的な被災者支援体制づくりと自治体の役割
—熊本地震・糸魚川大火の経緯から—

新潟大学 危機管理本部 危機管理室

教授 田村 圭子氏



A-9 13:00~13:50

生活再建支援に関する都としての取組
—区市町村と共に目指す被災者の生活再建の早期化—

東京都 総務局 総合防災部
情報統括担当課長

A-11 15:40~16:30

音楽・産業・多文化共生で世界から選ばれる街へ
—国際都市をめざす浜松市の戦略と取り組み—

浜松市長 鈴木 康友氏



政 務 活 動 報 告 書 (県 外)

議 員 名 森 雅 幹

活 動 事 項	鳥取県人会幹部との懇談 (ジョープライスコレクションをめぐって)
活 動 年 月 日	2017 年 5 月 26 日
場 所	日本プレスセンター9階 (千代田区内幸町2-2-1) 日本記者クラブ内ラウンジ
活 動 の 相 手 方	鳥取県人会幹部
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 江戸期の日本が収集で有名な米国人ジョープライス氏の奥様悦子 (旧姓吉持伯耆町出身) さんを通じて、県立美術館で氏のコレクション展を開催するため、連携して取組むために意見交換を行う。</p> <p>【内容】 出席者 東京県人会 萬治隆生 会長 末次克彦 幹事 鳥取側 福間裕隆県議、興治英夫県議、森雅幹</p> <p>【結果 (成果) 等】 お互い持っている情報を交換し、整理した。 ①県人会ルートは、萬治会長のルートで悦子さんの一番新任の厚い国谷裕子氏を通じてアプローチする。 ②鳥取側では、同級生情報からアプローチする。 ③結果を持ちより、再度調整する。</p> <p>今後協力して、県立美術館でのジョープライスコレクション展の実現させたい。</p>
関連領収書番号	5-13、5-14

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	日経新聞記者との懇談(ジョープライスコレクションをめぐって)
活動年月日	2017年6月8日
場 所	グランヴィア大阪 19F 大阪市北区梅田3丁目1番1号
活動の相手方	岡松卓也記者(日経新聞社大阪本社編集局社会文化グループ担当編集委員)
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 江戸期の日本が収集で有名な米国人ジョープライス氏の奥様悦子(旧姓:吉持、伯耆町出身)さんを通じて、県立美術館で氏のコレクション展を開催するため、連携して取組むために意見交換を行う。 日経新聞で連載された「私の履歴書 ジョー・プライス」の執筆者であり、夫妻の信頼の厚い岡松氏と直接会い、プライス夫妻の意向についての調査を行う。</p> <p>【内容】 出席者 岡松卓也記者 (日経新聞社大阪本社編集局社会文化グループ担当編集委員) 東京都人会 末次克彦 幹事 鳥取側 福間裕隆県議、興治英夫県議、森雅幹</p> <p>【結果(成果)等】 プライス夫妻の次の点についての意向意見交換を行った。 ①コレクションの活用方法(どこで、どれだけ)について ②夫妻が信頼されている日本人について ③鳥取側から協力依頼できる者について ④夫妻の今後のスケジュールについて 等 連載された「私の履歴書」は書籍化で検討中であること。日経系のBSジャパンで新番組が企画中であること、ロサンゼルス郡立美術館との契約、それにかかわるトラブル等が尾を引いていること等情報もいただいた。 今後、県立美術館でのジョープライスコレクション展の実現に向け、連絡を取り合いたい。</p>
関連領収書番号	6-2

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	「発達障害」理解の最前線シンポジウム
活動年月日	2017年7月2日
場所	東京大学 伊藤謝恩ホール 東京都文京区本郷7-3-1
活動の相手方	東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 鳥取県でも近年急増している発達障害児者への理解を深めることと対応政策を検討するためシンポジウムに参加する。</p> <p>【内容】 第1部 発達障害の理解と支援サービスの最前線 ①理解と支援の最前線(1) 黒田 美保(広島修道大学 教授/東京大学大学院 客員教授) ②理解と支援の最前線(2) 稲田 尚子(日本学術振興会/東京大学大学院 特別研究員) ③支援サービス提供の新たな試み 高岡 佑壮・日下 華奈子(東京発達・家族相談センター 臨床心理士)</p> <p>第2部 利用しやすい発達障害支援サービスの提供に向けて ①コメント:地域・教育機関との連携の観点から 村上 祐介(東京大学大学院 准教授) ②コメント:病院における治療・支援の観点から 加藤 進昌(昭和大学発達障害医療研究所 所長/公益財団法人神経研究所(晴和病院) 理事長・研究所長) ③質問タイム(質疑応答)</p> <p>【結果(成果)等】 「発達障害」の理解し支援するためには、発達障害者の行動の特徴、ものの考え方の特徴を理解することにより、行動を予測でき、有効な支援を行うことができること。発達障害といっても、人それぞれ。個人の行動や考え方の個人の特徴を把握して、一人ひとりにアセスメントが必要。支援のために違いを認め、尊重する。 目標は定型発達になることではないこと。発達障害と定型発達は、相互に歩み寄ることが重要。実生活に困らない具体的な工夫についてのアドバイスが重要。手助けを求めるスキルを身につける。ことなどが重要。</p> <p>ますます増える、発達障害児者への支援について、より理解がふかまり、今後の議員活動等に反映させていきたい。</p>
関連領収書番号	7-2

家族・支援者に役立つ『発達障害』理解の最前線

—利用しやすい最新支援サービスの提供に向けて—

日時：2017年7月2日（日曜日） 13時開場 13時30分開演～17時終了
場所：伊藤国際学術研究センター 伊藤謝恩ホール
<http://www.u-tokyo.ac.jp/ext01/iirc/access.html>
主催：東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター
後援：一般社団法人臨床心理iネット

【趣旨】発達障害（主に自閉スペクトラム症）の理解（検査）と支援の方法が新たに開発されている。しかし、最新情報が利用者（当事者、家族、学校関係者、支援者等）に適切に届いていない。その結果、発達障害の支援において、サービス受益者である利用者が最新サービスにアクセスできないというサービスギャップの問題が生じている。そこで本シンポジウムでは、サービスギャップを超えるために、発達障害の理解と支援の最新情報を分かりやすく利用者に伝えるとともに、ギャップを超えるために何が必要かを明らかにすることを目的とする。

<司会> 下山晴彦：バリアフリー教育開発研究センター 副センター長

13:30 ◆開会のご挨拶（5分）

小玉重夫 東京大学大学院教育学研究科長

13:35 ◆趣旨説明「発達障害におけるサービスギャップを超えるために」（10分）

下山晴彦 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター 副センター長

◆第1部 発達障害の理解と支援サービスの最前線 13:45-15:25

13:45 1) 理解と支援の最前線（1）（35分）

黒田美保：広島修道大学教授／東京大学大学院客員教授

14:20 2) 理解と支援の最前線（2）（35分）

稲田尚子：日本学術振興会／東京大学大学院特別研究員

14:55 3) 支援サービス提供の新たな試み（30分）

高岡佑壮・日下華奈子：東京発達・家族相談センター 臨床心理士

<休憩> 15:25-15:45（20分）

◆第2部 利用しやすい発達障害支援サービスの提供に向けて 15:45-16:55

15:45 1) コメント（1）地域・教育機関との連携の観点から（20分）

村上祐介：東京大学大学院准教授

16:05 2) コメント（2）病院における治療・支援の観点から（20分）

加藤進昌：昭和大学発達障害医療研究所 所長

／公益財団法人神経研究所（晴和病院）理事長・研究所長

16:25 3) 質疑応答（30分）

黒田・稲田・高岡・日下

16:55 ◆閉会の辞（5分）

野崎大地 東京大学大学院教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター センター長

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	青少年の非行・被害防止対策公開シンポジウムに参加
活動年月日	2017年7月3日
場 所	都市センターホテル3Fコスモスホール
活動の相手方	青少年の非行・被害防止対策公開シンポジウム 主催：内閣府(平成29年度「青少年の非行防止全国強調月間」関連事業)
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 青少年の非行・被害防止に向け、情報を共有して連携を図るとともに、青少年の非行や犯罪被害等についての国民の理解と関心を深め、青少年の非行・被害防止のための機運を盛り上げる目的のシンポジウムに参加し、情報収集するとともに、トツリケ的な課題を考える。</p> <p>【内容】 ○基調講演「性被害と子供への支援」石橋昭良(文教大学人間科学部教授) ○パネルディスカッション：テーマ：子供の性被害の根絶を目指して コーディネーター 堀 誠司(内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官) パネリスト 小西康弘 警察庁生活安全局少年課長「子供の性被害の現状と対策について」 東郷良尚 財団法人ユニセフ協会代表理事副会長「白昼の死角」を白目の下に 安藤久美子 聖マリアンナ医科大学神経精神科学教室准教授 「性被害をstop「SPILITS」：再犯防止のための加害者介入アプローチ」 石橋昭良 兵庫県立大学環境人間学部准教授 竹内和雄 文教大学人間科学部教授 「スマホ時代の子どもたちに大人ができること」</p> <p>【結果(成果)等】 警察庁から特徴的な問題について情報をえて、鳥取県的に何をしなければならないのか、考える一助になった。特に、スマホ時代での新たな常識を大人がまなぶ必要があることが印象的であり、対策を是非考えなくてはならないと強く感じた。 今後の議員活動等に反映させていきたい。</p>
関連領収書番号	7-2

青少年の非行・被害防止対策 公開シンポジウム

平成29年

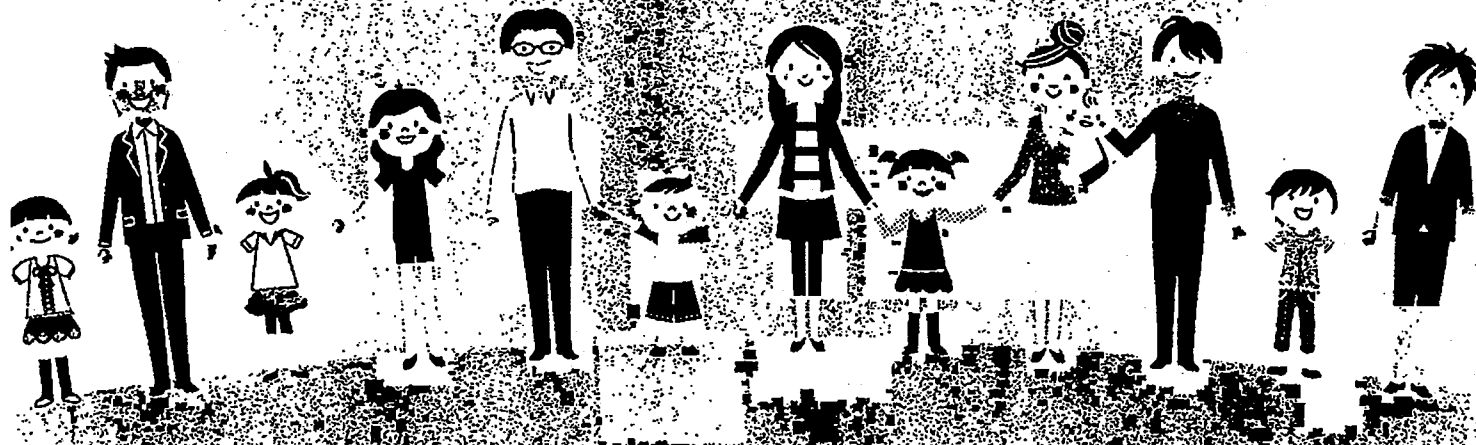
7/3

(月)

13:30~16:30

(受付13:00~)

青少年を非行や
犯罪被害から
守るために



テーマ 子供の性被害の根絶を目指して

会場：都市センターホテル 3階「コスモスホールI」

【プログラム】

●基調講演 講師：石橋 昭良(文教大学 人間科学部 教授)

●パネルディスカッション

パネリスト：小西 康弘(警察庁生活安全局少年課長)

東郷 良尚(公益財団法人 日本ユニセフ協会 代表理事 副会長)

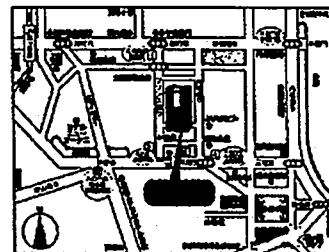
安藤 久美子(聖マリアンナ医科大学 神経精神科学教室 准教授)

竹内 和雄(兵庫県立大学 環境人間学部 准教授)

石橋 昭良(文教大学 人間科学部 教授)

コーディネーター：堀 誠司(内閣府政策統括官(共生社会政策担当)付参事官)

会場のご案内



都市センターホテル 3階「コスモスホールI」
〒102-0093 東京都千代田区千代田2-4-1
TEL(03)3265-8211

○最寄駅：東京メトロ有楽町線・半蔵門線二重橋「永田町駅」、
有楽町線「麹町駅」、丸の内線・有楽町線「赤坂見附駅」、
JR中央線「四谷駅」

申込方法：内閣府ホームページをご覧ください。

<http://www8.cao.go.jp/youth/ikusei/symposium1.html>

問合せ先：内閣府政策統括官(共生社会政策担当)青少年環境整備担当

TEL 03-5253-2111(代教) FAX 03-3581-1609

主催：内閣府 (平成29年度「青少年の非行・被害防止全国強靱月間」関連事業)

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	コメ政策シンポジウム参加
活動年月日	2017年7月8日
場 所	東京農業大学 農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂 東京都世田谷区桜丘 1-1-1
活動の相手方	シンポジウム「日本のコメ政策をどうする」 実践総合農学会
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 猫の目政治で変わるコメ政策について、最新情報を入手し理解を深めるとともに、国政・県政への提言等につなげる。</p> <p>【内容】 14:40 座長解題 座長 東京農業大学客員教授・農業ジャーナリスト 中村 靖彦氏 14:50 第1報告「稲作農家の受け止め方と意見」 宮城県角田市 米生産農家 面川 義明氏 15:15 第2報告「農協の立場から」 JAいわて花巻代表理事組合長 阿部 勝昭氏 15:40 第3報告「コメの消費拡大の技術開発(飼料米)」 東京農業大学農学部畜産学科教授 信岡 誠治氏 16:05 第4報告「コメの消費拡大の技術開発(米粉)」 東京農業大学食品加工技術センター教授 野口 智弘氏 16:50 総合討議 座長 中村 靖彦氏</p> <p>【結果(成果)等】 48年間続いた生産調整が2018年から廃止されることでのシンポジウムが開催された。元NHK解説委員の中村靖彦先生による座長解題があった。稲作農業における担い手不足や耕作放棄地の増加、米づくり農家の総兼業化とそれにより進まない農地流動化などを指摘され、この状況が「わが国の食料安全保障につながっているのか」という問題提起があった。 稲作専業農家からは、減反政策とともに農協への委託販売を減らし、直接販売を主体にすることにより、生き残りをかけていること。生産調整廃止とともに、生産量が増え、コメ価格が暴落してしまうのではという懸念だった。 本当に日本で鳥取県でコメ作りが続けられるのか、食糧安全保障の面からも、非常に注目されている。・・・ 県内でのコメ生産を続けていくために、どのような施策がふさわしいか今後も探りたい。</p>
関連領収書番号	7-4

2018年から米政策が大きく転換される。米政策については、食料安全保障や地域経済への影響など各方面からその方向性がどうなるか、関心や懸念が寄せられている。

本シンポジウムでは、2018年に米生産調整政策が廃止され、また国際的には2国間協定による一層の貿易自由化が予想されている中で、各方面の識者を招き、米に関わる話題を提供していただき、日本の米政策をどうするのか、参加者の認識を深めていくことを目的としている。

日時 2017年7月8日(土) 13:30~18:00 (受付13:00~)

場所 東京農業大学 農大アカデミアセンター地下1階 横井講堂

主催 実践総合農学会 参加自由 申込不要 参加費無料

プログラム

- 13:30 学会長挨拶 実践総合農学会長 三輪 睿太郎氏
- 13:35 開催校挨拶 東京農業大学長 高野 克己氏
- 13:40 基調講演「新たなコメ政策の展開方向」
農林水産省農産部長 天羽 隆氏
- 14:40 座長解題
座長 東京農業大学客員教授・農業ジャーナリスト 中村 靖彦氏
- 14:50 第1報告「稲作農家の受け止め方と意見」
宮城県角田市 米生産農家 面川 義明氏
- 15:15 第2報告「農協の立場から」
JAいわて花巻代表理事組合長 阿部 勝昭氏
- 15:40 第3報告「コメの消費拡大の技術開発(飼料米)」
東京農業大学農学部畜産学科教授 信岡 誠治氏
- 16:05 第4報告「コメの消費拡大の技術開発(米粉)」
東京農業大学食品加工技術センター教授 野口 智弘氏
- 16:50 総合討議
座長 中村 靖彦氏

※ 報告タイトル等が変更になる場合があります。

お問い合わせ

実践総合農学会事務局

東京都世田谷区桜丘1-1-1(東京農業大学総合研究所内)
TEL: 03-5477-2532/FAX: 03-5477-2634
E-mail: nri@nodai.ac.jp

日本のコメ政策をどうする

実践総合農学会 2017年度 シンポジウム

政 務 活 動 報 告 書 (県 外)

議 員 名 森 雅 幹

活動事項	第19期自治政策講座 in 横浜 「暮らしを支える自治体の政策」へ参加
活動年月日	2017年7月25、26日
場 所	神奈川産業振興センター 13階会議室 〒231-0015 横浜市中区尾上町5-80
活動の相手方	第19期自治政策講座 in 横浜 主催：自治体議会政策学会
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 自治政策講座に参加し、最新の情報を得て、鳥取県政に生かしていく。</p> <p>【内容】 7月25日(火) [13:00~16:30] 第1講義 食からの地域再生 ー田舎力の創造へ 金丸 弘美 地域活性化アドバイザー 第2講義 命をつなぐ水 ー水道法改正と自治体 橋本 淳司 水ジャーナリスト 7月26日(水) [10:00~16:30] 第3講義 セーフティーネットの張替えと自治体の責務 神野 直彦 日本社会事業大学学長・東京大学名誉教授 第4講義 自治体の災害時の業務継続 ー行政の役割と議会の論点 紅谷 昇平 兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科准教授 第5講義 超高齢社会と交通 ー免許返納と地域交通の課題 所 正文 立正大学心理学部教授</p> <p>【結果(成果)等】 どの講義も時宜を得たもので、大変勉強になった。 特に金丸氏の講演は、日本各地の地域創生の事例を紹介しながらの講演で 大変興味深かった。早速、著書(実践!田舎力 小さくても経済が回る5つ の方法、里山産業論「食の戦略」が六次産業を超える)注文した。 鳥取県政に必ずや活かしていかなければならないと感じた。</p>
関連領収書番号	7-8, 7-9, 7-17

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	国立障害者リハビリテーションセンター、武蔵野ホールディングス、鳥取岡山新橋館 訪問
活動年月日	2017年8月1日、2日
場 所	国立障害者リハビリテーションセンター(埼玉県所沢市)、 武蔵野ホールディングス、(埼玉県朝霞市) とっとり・おかやま新橋館(港区新橋)
活動の相手方	国立障害者リハビリテーションセンター：機能訓練課長 白浜 一 企画係長 松橋次郎 武蔵野ホールディングス：代表取締役 安田定明 鳥取岡山新橋館： 稲田屋本店会長 梅原俊治 取締役事業本部長 山碕勝行 とっとり・おかやま新橋館：1F店長 瀬尾泰弘 鳥取県東京本部：販路開拓チーム主幹 高橋和也
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 福岡県議とともに現地に赴き、それぞれの現状について、調査あるいはお願いをする。</p> <p>【内容】 ○国立障害者リハビリテーションセンター：視覚障害(全盲以外)についてのリハビリについて理解を深める ○武蔵野ホールディングス 御社がセブンイレブンのおにぎり、サンドイッチ、パンのサプライヤーであることから、県内セブンへの流通拠点を米子に作ってくれるよう依頼 ○とっとり・おかやま新橋館 運営3年が終わるにあたり、現在までの運営上居言うの把握</p> <p>【結果(成果)等】 ○視覚障害にもいろいろあり、ここに応じてリハビリ・訓練が必要なことを学んだ。 ○セブンイレブンの流通拠点については、直接的には難しいが、営業を見ながら、販売量によっては自社の工場建設の可能性にも言及を受けた。USJの前に800室のホテルを建設中との情報を得た。 ○稲田屋が運営する2階のレストランについては、運営は赤字で厳しいが、しばらく頑張るとの意欲を聞いた。</p> <p>それぞれのところで率直な意見交換を行い、より理解が進んだ。 セブンイレブンが鳥取県に出店攻勢をかけてきているので、鳥取県産品を使ってもらう可能性が感じられた。今後も積極的に安田会長とのつながりを太くして、可能性を探りたい。とりあえず、とっとり・おかやま新橋館については、運営が続けてもらえそうだが、今後も注視したい。</p>
関連領収書番号	8-1, 8-2

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	地方自治総合研究所 ふるさと回帰支援センター訪問
活動年月日	2017年8月2日、3日
場所	地方自治総合研究所：東京都千代田区六番町1 ふるさと回帰支援センター：千代田区有楽町2-10-1
活動の相手方	地方自治総合研究所 研究員 上林陽治、主任研究員 今井 照 ふるさと回帰支援センター 理事長 高橋公、とっとり暮らしサポートセンター相談員米村宗子
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 ○地方自治総合研究所 臨時非常勤職員の待遇についての国や自治体の動向についての情報収集 ○ふるさと回帰支援センター： 最近の相談者のニーズや傾向などについての情報収集</p> <p>【内容】 ○地方自治総合研究所 臨時非常勤職員の実態はまさに官製ワーキングプア、しかも正規職員から非正規職員化が止まらない。ますます格差が拡大している実態が全国的に進んでいることをデータともに受けた。 ○ふるさと回帰支援センター： 当初は団塊の世代が退職するのを機会に、地域活性化と新たな価値観を創造するための社会運動として「自然豊かな地方で暮らそう『100万人のふるさと回帰・循環運動』」として取り組みが始まった。しかし、東北大震災を機に移住希望者が大きく変わり始めた。今では、20代後半30代が子どもを連れて、「環境の良い地方で子育て」という社が多くなった。また、今では、東京以外の47道府県のブースがセンター内にできた。オフィス面積も飛躍的に増えた。この流れは変わらない。今こそ、鳥取の良さをこのセンターでアピールするべきと説明を受けた。</p> <p>【結果(成果)等】 臨時非常勤職員問題については、法改正がなされたが充分ではなく今後も課題が残るが少なくとも法律に沿って、鳥取県の臨時非常勤職員の待遇改善をはかりたい。移住定住の問題については、私の提案も受け鳥取県ブースがセンター内にできていた。とっとり・おかやま新橋館との連携も取りながら、相談体制やイベント開催が求められる。県政に生かしていきたい。</p>
関連領収書番号	8-1, 8-17

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	地域公共交通研究所シンポジウム 第5回シンポジウム「地域のモビリティをどう確保するか」参加
活動年月日	2017年8月9日
場 所	政策研究大学院大学想海楼ホール 東京都港区六本木 7-22-1
活動の相手方	地域公共交通研究所シンポジウム 第5回シンポジウム「地域のモビリティをどう確保するか」
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 地域公共交通をいかに残していくのかについて、最新の研究者の報告や全国 の取組みを報収集する</p> <p>【内容】 Part1 講演 モビリティ確保方策の質的転換を目指して～社会・システム・技術の新たな展開～ 【講演1】 吉澤武彦氏（日本カーシェアリング協会代表理事） 「共助のコンセプト」で地域モビリティを確保する ～石巻発カーシェアリング・ライドシェアリングの取り組み～ 【講演2】 鳩山紀一郎氏（長岡技術科学大学産学融合トップランナー養成センター産学融合特任准教授） 三陸被災地域における地域モビリティ再生の様々な試み～その明暗～ 【講演3】 岡村敏之氏（東洋大学国際地域学科教授） 「自助」・「共助」と「地域公共交通事業」のはざまを探る 【講演4】 羽藤英二氏（東京大学社会基盤学専攻教授） モビリティの未来：自動運転とシェアリング～技術的期待と限界性～ 【講演5】 大聖泰弘氏（早稲田大学研究院次世代自動車研究機構特任研究教授） クリーン・モビリティの将来性</p> <p>Part2 座談会 地域公共交通経営の改善方策～制度と経営の多様なアプローチ～ 司会 家田仁氏 藤井直樹氏（国土交通省自動車局長） 松本順氏（株式会社みちのりホールディングス代表取締役社長） 小嶋光信（一般財団法人地域公共交通総合研究所代表理事）</p> <p>【結果（成果）等】 全国各地で、地域公共交通を守るための努力がなされている情報収集した。 中でも、「乗って残す」「交通事業者は今の乗客を減らさずではなく、新たなイ ベントなどバスに乗る機会を創ることが重要」「貨客混乗がカギ」「政治が問題」 など記ワードがかなりあった。とっとり県政に生かしていきたい。</p>
関連領収書番号	8-8, 8-9

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	第11回全国和牛能力共進会宮城大会視察
活動年月日	2017年9月9日
場所	夢メッセみやぎ 仙台市宮城野区港3丁目1-7 秋保温泉「佐勘」:仙台市太白区秋保町湯元字薬師28
活動の相手方	第11回全国和牛能力共進会宮城大会 及び、出品農家
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 第11回全国和牛能力共進会には鳥取県から19名の生産者が27頭の代表牛を出品予定。上位入賞を目指し応援するとともに、全共の様子を視察および、出費の農家の激励会に出席し、激励する。</p> <p>【内容】 9月9日 ○第11回全国和牛能力共進会宮城大会会場を視察 牛舎を訪問し出品牛並びに生産者と懇談 審査会場にて審査の視察</p> <p>○秋保温泉「佐勘」での生産者激励会に出席、農家を激励</p> <p>【結果(成果)等】 初めて、全共に参加し、鳥取県の代表牛や生産農家とも交流できた。鳥取県代表ウ牛の成績は7区の肉用牛の部で第1位、種牛の部で5位、7区総合2席と過去最高の成績を上げた大会に同席できたことは非常に感慨深かった。 また、鳥取和牛振興の県の政策は今後も許可しなければ考えた。今後飼養頭数が圧倒的に少ない鳥取県が好成績をあげていくための方策を模索したい。</p>
関連領収書番号	9-5、9-13

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	平成29年度 森林総合研究所 公開講演会 参加
活動年月日	2017年10月24日
場 所	ヤクルトホール 東京都港区東新橋 1-1-19 ヤクルト本社ビル
活動の相手方	平成29年度 森林総合研究所 公開講演会「木を使って守る生物多様性」
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 人口林は自然環境と共存しないと考えていたが、最新の研究知見で理解を深める</p> <p>【内容】</p> <p>【講演】</p> <p>○五箇 公一 国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター 室長 森が育む日本の生物多様性と私たちの生活」</p> <p>○尾崎 研一 森林総合研究所研究ディレクター 「木材を使うことと、生物多様性を守ることの両立をめざす森林管理」</p> <p>○岡本 透 森林総合研究所関西支所 チーム長(森林土壌資源担当) 「歴史資料から知る過去の林野利用」</p> <p>【ポスター発表】</p> <p>【講演】</p> <p>○吉村 真由美 森林総合研究所研究評価科 研究評価室長 「生物多様性の鍵となる溪畔林の役割と管理」</p> <p>○佐藤 保 森林総合研究所森林植生研究領域 領域長 「生物多様性に配慮した人工林施業を考える」</p> <p>○岡部 貴美子 森林総合研究所生物多様性研究拠点 拠点長 「生物多様性の保全に向けて—今後の展望—」</p> <p>【結果(成果)等】 意外にも、人工林を適切に管理していくことが生物多様性の保全にどのように役立つという最新の研究知見を学んだ。 人口林の皆伐がなかなか行われないうえ、幼齢林が少ない。そのため、生物多様性が縮んでいることから、生物多様性のためにも、皆伐再造林が必要とすることが特に印象に残った。 鳥取県林業の上にもこの皆伐が必要と考えた。</p>
関連領収書番号	10-4

森林総合研究所
公開講演会

水を使って守る 生物多様性

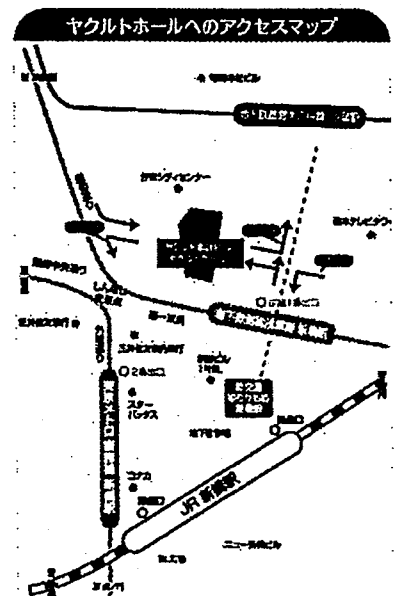
入場
無料

予約
不要

日時 平成29年 10月24日(火) 13:20~16:40

会場 ヤクルトホール (東京都港区東新橋1-1-19 ヤクルト本社ビル)

13:20	開会	司会:理事 田中 浩
13:20 - 13:25	開会挨拶	理事長 沢田 治雄
13:25 - 14:05	招待講演 森が育む日本の生物多様性と私たちの生活	国立環境研究所 生物・生態系環境研究センター室長 五箇 公一氏
14:05 - 14:55 (前半の部)	木材を使うことと、生物多様性を守ることの両立をめざす森林管理	研究ディレクター 尾崎 研一
14:55 - 15:30	歴史資料から知る過去の林野利用	関西支所 チーム長 (森林土壌資源担当) 岡本 透
15:35 - 16:35 (後半の部)	生物多様性の鍵となる溪畔林の役割と管理	研究評価科 研究評価室長 吉村真由美
	生物多様性に配慮した人工林施業を考える	森林植生研究領域 領域長 佐藤 保
	生物多様性の保全に向けて—今後の展望—	生物多様性研究拠点 拠点長 岡部真美子
16:35 - 16:40	閉会挨拶	理事 桂川 裕樹



ヤクルトホールへのアクセスマップ

JR新橋駅「銀座口」より徒歩3分
 都営地下鉄浅草線 新橋駅「汐留1番出口」より徒歩1分
 都営大江戸線 汐留駅 徒歩5分
 東京メトロ銀座線 新橋駅「2番出口」より徒歩2分
 新交通 ゆりかもめ 新橋駅 徒歩3分

主催 国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所

後援 土木学会 日本建築学会 日本森林学会 日本生態学会 日本木材学会



問い合わせ先

国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所 企画部広報普及科広報係
 茨城県つくば市の里1 TEL: 029-829-8372 FAX: 029-873-0844
 Eメール: kouho@ffpri.affrc.go.jp URL: https://www.ffpri.affrc.go.jp/ffpri.html

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017 参加
活動年月日	2017年10月28-29日
場所	東洋大学白山キャンパス(東京都文京区白山 5-28-20)
活動の相手方	くらしの足をみんなで考える全国フォーラム 2017
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 参加者との交流や先進事例をまなぶことにより、公共交通を守る糸口、解決策を探る</p> <p>【内容】 <プログラム(1日目)10月28日(土)> ◆くらしの足概論&ディスカッション (1)鎌田実(東京大学教授) くらしの足概論 (2)ディスカッション コーディネーター鎌田実 ・三星昭宏(近畿大学名誉教授) ・大津太郎(秦野市公共交通推進課課長代理) ・遠藤準司(全国移動サービスネットワーク理事) ・佐治友基(ソフトバンクドライブ(株)代表取締役社長)</p> <p>◆グループディスカッション グループに分かれて、くらしの足に関する悩みや課題を共有し、解決のヒントをみんなで議論しました。【結果(成果)等】</p> <p><プログラム(2日目)10月29日(日)> ◆ショートスピーチ 松本年弘(国土交通省総合政策局公共交通政策部長)</p> <p>◆基調講演・ディスカッション 基調講演(1)久野譜也1 筑波大学大学院人間総合科学研究科教授 「くらしの足」で地域を「健幸」にする! 基調講演(2)水落 優(NPO法人くらしサポート越後川口 理事長) 「くらしの足」で地域を「健幸」に(通称 黄バスの運行にて) コーディネーター 加藤博和(名古屋大学教授)</p>

	<p>◆白熱討論</p> <p>「くらしの足の確保の先を見据えて」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩村龍一((株)コミュニティタクシー会長) ・若葉乎穂((特非)いわて地域づくり支援センター常務理事) ・伊藤昌毅(東京大学助教) ・寺井豊(京都府交通政策課長) <p>コーディネーター岡村敏之(東洋大学教授)</p> <p>【結果(成果)等】</p> <p>くらしの足(交通機関)は健幸(健康)大いに関係があり、目標を持って「お出かけ」することがリハビリにもつながり、歩くようになったとか、その経費を国民健康保険で負担するなどの取り組みが報告され、まさに目からうろここという感だった。</p> <p>「鳥取県日野町の取り組み」</p> <p>タクシー代の半額補助→早期受診→医療費下がる→国保料引き下げ という循環も報告され、こういう取り組みが非常に重要と考えた。 県内で広めていきたい。</p>
<p>関連領収書番号</p>	<p>10-6, 10-7</p>

政務活動報告書(県外) 議員名 森 雅幹

活動事項	TRCセミナー「まちの課題を解決する図書館@図書館総合展 参加
活動年月日	2017年11月7日
場 所	パシフィコ横浜アネックスホール 202 (横浜市西区みなとみらい 1-1-1)
活動の相手方	図書館総合展 : 図書館流通センター・図書館総合研究所
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 図書館総合展に参加し、図書館の役割、課題を再確認するとともに、美術館の在り方、アクティブラーニングについての知見を収集する。</p> <p>【内容】 ○図書館総合展で美術館を語る 神代浩(東京国立近代美術館長、図書館海援隊長) 米田耕治長崎県立美術館長 図書館・美術館では、予算不足から指定管理制導入や職員の非常勤化が急速に進んでいる。図書館・美術館は単なる本や作品を並べる箱ではない。司書・学芸員の専門性が非常に重要であり、その人財こそが重要。 美術館の第1は保存、第2は公開・展覧会、第3は教育・普及の参加・体験だ。子どもたちには無料で体験させるべきだ。女性にウケル展覧会は人が入る。美術館ライブラリーに司書を配置して充実させるべき。</p> <p>○アクティブラーニング最前線 米澤誠(京都大学附属図書館事務部長) 京都大学図書館ではラーニングコモンズとして、図書館に30パターンのラーニング空間(周りから見える)を設置した。このことにより学びの見える化と共同学習の場となった。また、学生が求めている待ち合わせの場所でもあり、カフェでもある空間となった。図書館を使いながら課題を発見し解決策を他者と共同しながら探るといった空間を提供できた。</p> <p>【結果(成果)等】 美術館の使命とこれからの方向性を最前線に立つ館長ら聞いたことは非常に有意義だった。また、図書館と美術館の共通点が多く連携がとても重要であることも再認識した。これからできる県立美術館、そして県立図書館あり方についても深く考えたい。</p>
関連領収書番号	11-5

第19回図書館総合展

開催期間：公共施設活性化フェア/教育・学術情報フェア/2017



展示会/11月8日(水)～11月9日(木) 10:00～18:00
会場/パシコ横浜 展示ホールA/アネックスホール

招待券

主催：図書館総合展実行委員会
共催：JOCカルチャー・センター
協賛：パシコ横浜

お問い合わせ先：パシコ横浜 展示ホールA/アネックスホール
TEL: 045-261-1111

図書館総合展運営委員会 共催フェア

- 公共施設活性化フェア
- 教育・学術情報フェア
- 図書館総合展実行委員会
- パシコ横浜
- JOCカルチャー・センター
- パシコ横浜

国際協力企画

- 国際協力企画
- 国際協力企画
- 国際協力企画

スビーカーズコーナー

- スビーカーズコーナー
- スビーカーズコーナー
- スビーカーズコーナー

スカーズ・ラボ

- スカーズ・ラボ
- スカーズ・ラボ
- スカーズ・ラボ

国際協力企画

- 国際協力企画
- 国際協力企画
- 国際協力企画

9月10日(日) 入館券

入館券	100円
学生券	50円
高齢者券	50円
障害者券	50円
外国人券	100円

9月10日(日) フォーラム主催者

主催者	100円
協賛者	50円
協力者	50円

9月10日(日) 図書館へのおすそめ

おすそめ	100円
おすそめ	50円
おすそめ	50円

10月10日(日) ホスターセセッション参加者

参加者	100円
参加者	50円
参加者	50円

図書館ボランティアメンバー

図書館ボランティアメンバーの募集です。興味のある方はお問い合わせください。

新刊図書紹介コーナー

新刊図書紹介コーナーの開催です。最新の書籍をご紹介します。

学生参加者のための展示ブース

学生参加者のための展示ブースの開催です。学生が活躍の場を設けます。

図書館へのおすそめ

図書館へのおすそめの開催です。図書館に感謝の気持ちを表します。

図書館総合展のご案内

図書館総合展のご案内です。開催期間と会場について詳しく説明します。

来場者登録カード(入館用換取)

来場者登録カード(入館用換取)の発行方法について説明します。

お問い合わせ先

お問い合わせ先です。お問い合わせ先と連絡先について詳しく説明します。

活動事項	防災推進国民大会 2017 参加
活動年月日	2017年11月26日27日
場 所	仙台国際センター 宮城県仙台市青葉区青葉山無番地
活動の相手方	防災推進国民大会 2017
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 防災国体に参加し、東日本大震災の教訓を共有するとともに、防災に関する知見を深める。</p> <p>【内容】</p> <p>◆シンポジウム「防災教育これまでとこれから」 パネルディスカッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ■テーマ1. 「ぼうさい探検隊」 ■テーマ2. 「防災教育と地域」 ■テーマ3. 「防災教育と学校」 <p>コーディネーター 谷原和憲氏 (日本テレビ放送網 NNN ドキュメントチーフプロデューサー)</p> <p>パネリスト</p> <p>室崎益輝氏 (兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科長・教授) 吉門直子氏 (文部科学省安全教育調査官) 佐藤 健氏 (東北大学災害科学国際研究所教授) 宇田川智弘 (日本損害保険協会業務企画部長)</p> <p>◆シンポジウム「防災教育の過去、現在、未来」 司会 平田 直 東京大学地震研究所教授・防災教育普及協会会長 河田 恵昭 人と防災未来センター長、関西大学 社会安全研究センター長・特別任命教授 「阪神淡路大震災以降の防災教育の発展を振り返る」 渡邊 正樹 (安全教育) 東京学芸大学教授・防災教育普及協会 副会長 「学校安全教育の一環として行われている防災教育の現在を振り返る」 吉門 直子 (防災教育) 文部科学省 初等中等教育局 健康教育・食育課・安全教育調査官 「学習指導要領の改訂が目指すこれからの防災教育を展望する」 林 春男 (防災全般) 防災科学技術研究所 理事長 「将来の国難災害に向けてレジリエンスを高めるための防災教育を展望する」 など</p>

	<p>◆シンポジウム「3.11 東日本大震災・原子力災害からの教訓」</p> <p>○第1部研究総括報告 山川充夫 帝京大学経済学部教授（福島大学 FURE 客員教授） 「福島復興・再生に向けた5年間の軌跡」～原子力災害復興の基本問題は何か～</p> <p>○第2部研究活動成果報告 12:20～12:50 高木亨 熊本学園大学社会福祉学部准教授 「原子力災害からの社会的復興支援研究の成果と展望」 大瀬健嗣 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター特任准教授 「原子力災害からの農業の復興」</p> <p>○第3部パネルディスカッション 12:50～14:00 「3.11 東日本大震災・原子力災害からの教訓」 ～大規模複合災害を通して防災を考える～ モデレーター：初澤敏生 福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長・教授 コメンテータ：山川充夫 帝京大学経済学部教授 パネリスト：吉田樹福 島大学経済経営学類准教授 三村悟 独立行政法人国際協力機構東北支部(JICA 東北)次長 山崎庸責 一般社団法人ふくしま連携復興センター理事</p> <p>【結果（成果）等】 東日本大震災を教訓に、防災教育の重要性が再認識された。改めてこれまでの防災教育を点検検証し今後の在り方を議論した。昨今の気象状況はゲリラ豪雨に象徴される水害、火山災害、地震災害など日本中いつでも起こりうるものとなっており、鳥取県においても、全ての子どもたちが自らのこととして防災を学ばなければならない。県政に活かしていきたい。</p>
<p>関連領収書番号</p>	<p>11-16, 11-17, 11-18</p>

防災を「学ぶ、体験する、考える」みんなのイベント

ぼうさいこくたい

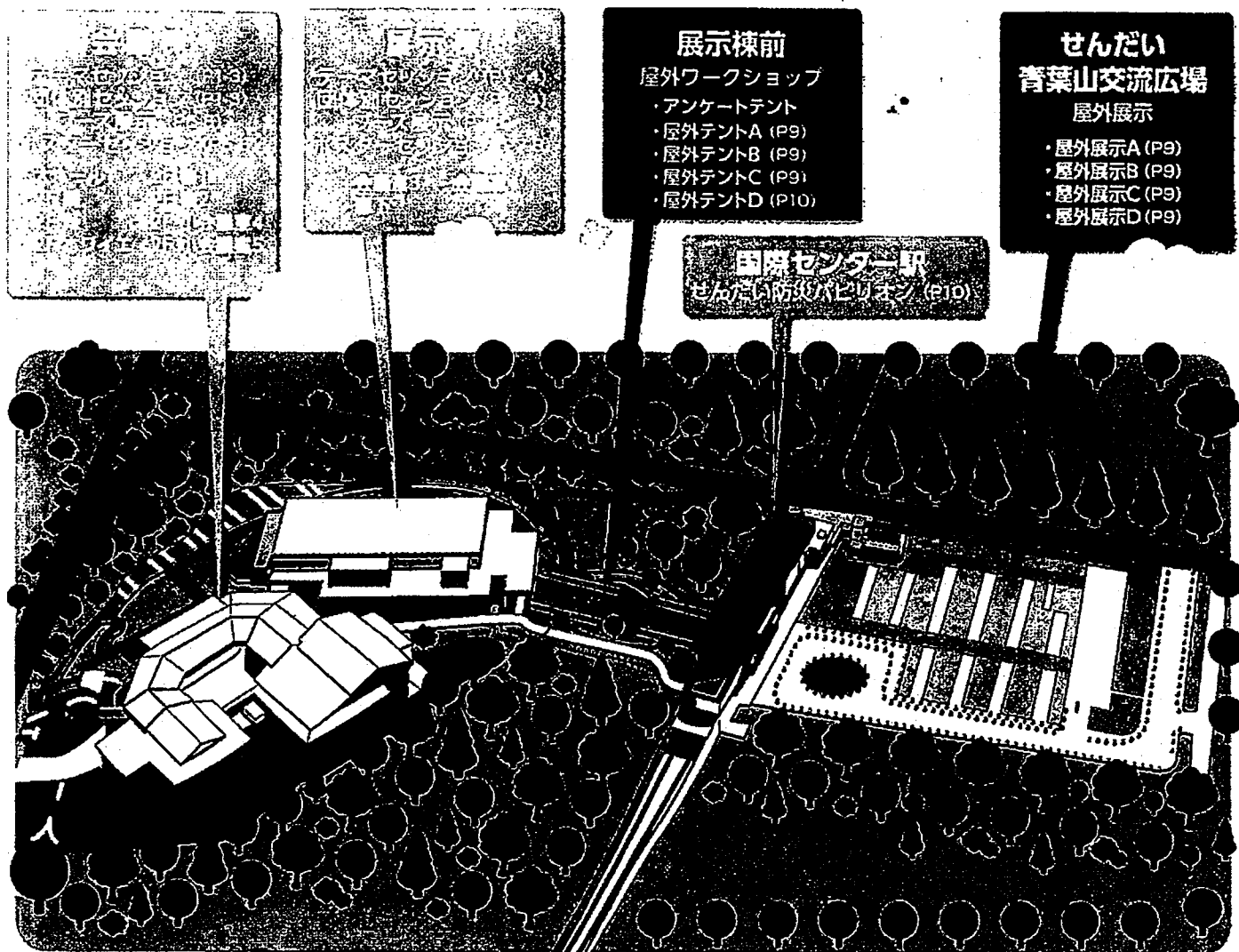
防災推進国民大会 2017

プログラム

今年は
仙台で
開催

「大規模災害に備える ～みんなの連携が力になる防災～」

●地域における連携を深める ●防災について学ぶ ●誰もが参加する防災



平成29年

日時：11月26日(日)～27日(月) 両日とも10:00～17:00

会場：仙台国際センター／せんだい青葉山交流広場／国際センター駅

主催：防災推進国民大会 2017 実行委員会[内閣府(防災担当)/防災推進協議会/防災推進国民会議]

<http://bosai-kokutai.jp/>

ぼうさいこくたい

検索



参加・入場
無料

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	キャリア教育推進連携シンポジウム 参加
活動年月日	2018年1月11日
場 所	国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟 大ホール
活動の相手方	キャリア教育推進連携シンポジウム
目的・内容・結果等	<p>【目的】 キャリア教育推進連携シンポジウムに参加して、全国各地の学校・教育委員会の取り組みや商工関係団体の取組みを調査し、鳥取県政に生かす。</p> <p>【内容】 表彰式 「第8回キャリア教育アワード」 (経済産業省) 「第10回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」 (文部科学省) 「第7回キャリア教育推進連携表彰」 (厚生労働省) 講評・講演 キャリア教育推進連携表彰・キャリア教育アワード 審査委員長東京工業大学 学長 三島 良直 氏 基調講演 認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山あつこ氏 「一人ひとりのわくわくエンジンが未来をつくる」</p> <p>事例発表 「第10回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」受賞校による事例発表 「第8回キャリア教育アワード」最優秀賞受賞企業・団体による事例発表 「第7回キャリア教育推進連携表彰」最優秀賞受賞団体による事例発表</p> <p>パネルディスカッション 「学びと社会をつなげる人生100年時代のキャリア教育」 パネリスト 朝山 あつこ 認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 諏訪 康雄 法政大学 名誉教授 三村 隆男 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 尾崎 茂 一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会 代表理事、菅公学生服株式会社 代表取締役社長 坪田 知広 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 課長</p> <p>モデレーター 長田 徹 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官</p> <p>【結果(成果)等】 共同プロジェクトで3省を挙げて取り組んでいる。昨年まではなかったが、2017年度は鳥取県からも南部町教育委員会、鳥取商業高校が表彰された。キャリア教育についての全国各地の取組み事例を学び、鳥取県政に生かしていく。</p>
関連領収書番号	301-5

平成 29 年度キャリア教育推進連携シンポジウム概要

1. 開催日時等

日 時：平成30年1月11日（木）13:00～17:30

場 所：国立オリンピック記念青少年総合センターカルチャー棟 大ホール
（東京都渋谷区代々木神園町3番1号）

費 用：無料

定 員：750名

申 込：下記URLからお申し込みください。定員になり次第締め切りとさせていただきます。
<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/career-education/h29sympo.html>

2. プログラム内容

①表彰式

「文部科学大臣表彰」「キャリア教育アワード」「キャリア教育推進連携表彰」

②講評、講演

キャリア教育推進連携表彰・キャリア教育アワード 審査委員長
国立大学法人東京工業大学 学長 三島 良直氏

③基調講演

「一人ひとりのわくわくエンジンが未来をつくる」

特定認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山 あつこ氏

④事例発表(各受賞団体)

「文部科学大臣表彰」の代表団体及び「キャリア教育アワード」「キャリア教育推進連携表彰」の各部門で最優秀賞を受賞した学校・企業・経済団体等によるキャリア教育の取組の先進事例を発表。

⑤パネルディスカッション

「学びと社会をつなげる人生100年時代のキャリア教育」

(パネリスト) 特定認定NPO法人キーパーソン21 代表理事 朝山 あつこ氏
法政大学 名誉教授 諏訪 康雄氏
早稲田大学教育・総合科学学術院 教授 三村 隆男氏
一般社団法人カンコー教育ソリューション研究協議会 代表理事、
菅公学生服株式会社 代表取締役社長 尾崎 茂氏
文部科学省初等中等教育局児童生徒課 課長 坪田 知広
(モデレーター) 文部科学省初等中等教育局児童生徒課 生徒指導調査官 長田 徹

3. 主 催

文部科学省・厚生労働省・経済産業省

4. 後 援(予定)

一般社団法人日本経済団体連合会/公益社団法人経済同友会/日本商工会議所/公益財団法人
日本進路指導協会/全国中学校進路指導・キャリア教育連絡協議会/全国高等学校進路指導
協議会/特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

政務活動報告書(県外) 議員名 森 雅幹

活動事項	シンポジウム「ことばのプロフェッショナル」への参加
活動年月日	2018年1月20日
場 所	東京証券会館ホール(東京都中央区日本橋茅場町1-5-8)
活動の相手方	シンポジウム「ことばのプロフェッショナル」
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 ことば(日本語)を多様な視点から問い直すシンポジウムに参加し学習する</p> <p>【内容】 開会あいさつ 仁田 義雄(言語系学会連合 運営委員長)</p> <p>○「ことばを見つけるー日本語研究の視点からー」 塩田 雄大(NHK 放送文化研究所)</p> <p>○「ことばを使うー航空機客室サービスの視点からー」 小森 裕子(日本航空(株))</p> <p>○「ことばを繋ぐー通訳・翻訳の視点からー」 鳥飼 玖美子(立教大学)</p> <p>○「ことばを教えるー日本語教育の視点からー」 嶋田 和子(アクラス日本語教育研究所)</p> <p>ディスカッション 司会:野田 尚史(国立国語研究所)</p> <p>16:25~16:30 閉会あいさつ 田窪 行則(国立国語研究所 所長) 【結果(成果)等】</p> <p>【結果(成果)等】 「ら抜き」ことばなどの表現について、いつ、どのように使い、世代や性別、地域によつての傾向に差があるのかなど、調査結果を元に発表。 直接言葉を使つてのコミュニケーション、AI と通訳・翻訳の関係、外国人への日本語教育の現場からの報告があり、非常に興味深かつた。 小学校から英語の授業が低学年からも始まる。改めて国語(日本語)の大切さを訴えていきたい。</p>
関連領収書番号	301-11、301-12

シンポジウム

ことばの

プロフェッショナル

ことばを見つける

—日本語研究の視点から—

塩田 雄大 (NHK 放送文化研究所)

ことばを使う

—航空機客室サービスの視点から—

小森裕子 (日本航空株式会社)

ことばをつなぐ

—通訳・翻訳の視点から—

鳥飼玖美子 (立教大学)

ことばを教える

—日本語教育の視点から—

嶋田 和子 (アクラス日本語教育研究所)

2018.

1.20 [土]

13:00 ~ 16:30

東京証券会館ホール
東京都中央区日本橋茅場町 1-5-8

＊ 参加費：無料

＊ 定 員：300名 (先着順)

＊ 参加申込：「言語系学会連合」または「国立国語研究所」のウェブサイトから申込をお願いします。 ※12/1(金) 受付開始

主催：言語系学会連合 共催：国立国語研究所

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	マイクロプラスチック問題学習会への参加
活動年月日	2018年1月21日
場 所	連合会館 201 会議室 東京都千代田区神田駿河台 3-2-11
活動の相手方	マイクロプラスチック問題学習会 主催：NPO法人 ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 毎日の生活で利用するプラスチック製品が、世界中の海洋汚染を引き起こしている。環境中に廃棄されたプラスチックは、紫外線などで細かく分解され海中を漂い、動物、魚類がえさと間違え体内に取り入れている。 これらのプラスチックにはもともと使われている様々な添加剤に加え、海洋中の化学物質も吸着される。これらの化学物質の中には環境ホルモン作用が疑われるものも含まれており、まさにプラスチックは環境ホルモンの運び屋となり、海洋生物を汚染し結果それを食す人間を汚染している。 このシンポジウムに参加し今後の環境問題を考える一助にする。</p> <p>【内容】 開会あいさつ 講演 高田秀重氏（東京農工大学農学部環境資源学科教授） 質疑 自由討議 閉会あいさつ</p> <p>【結果（成果）等】 海洋でのマイクロプラスチックが大問題であること、そして、そのもとになるプラスチックが、製造時に混入されている様々な添加物である化学物質を含むことで環境ホルモンとしても機能していること。 日頃ゴミの4Rに取り組むことになっているが、現状として、河川を通じて日本でも大量のプラスチックが海洋に放出されつづけていること。 世界の中国も含む途上国ではとんでもない量が海洋に放出され続け、大量のマイクロプラスチックとなり世界中を覆っていること。等詳しく実態を学んだ。普段目の前から消えてしまうゴミ問題を地球全体の問題としてとらえ直し、鳥取県から世界を変えていかねばならないと実感した。鳥取県政にぜひ生かしていきたい。</p>
関連領収書番号	301-11、301-12

環境ホルモンとしての マイクロプラスチック問題

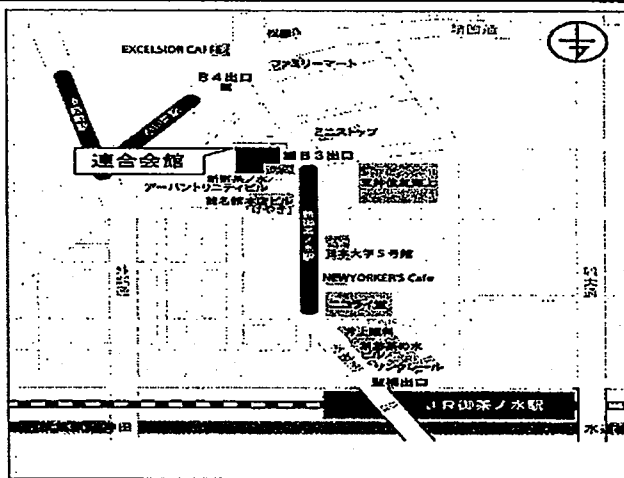
私たちが毎日の生活で利用するプラスチック製品が、世界中の海洋汚染を引き起こしています。環境中に廃棄されたプラスチックは、紫外線などで細かく分解され海中を漂っています。東京オリンピックでオープンウォータースイムが開催予定の東京湾お台場近辺でもマイクロプラスチックは簡単に見つけられるほどです。

これらのプラスチックにはもともと使われている様々な添加剤に加え、海洋中の化学物質も吸着されます。これらの化学物質の中には環境ホルモン作用が疑われるものも含まれており、まさにプラスチックは環境ホルモンの運び屋となり、海洋生物や私たち人間を汚染します。

今回、マイクロプラスチック問題、環境ホルモン問題の両方で、第一線の研究を続けられている東京農工大学の高田秀重先生に御講演いただき、問題解決のために何が必要か、一緒に考えたいと思います。ぜひ御参加ください。

2:00~2:10	開会あいさつ
2:10~3:40	講演 高田秀重氏（東京農工大学農学部環境資源学科教授）
3:40~3:50	休憩
3:50~4:20	質疑応答・自由討議
4:20~4:30	閉会あいさつ

日時：
2018年1月21日（日）
午後2:00~4:30
会場：連合会館201会議室
東京都千代田区神田駿河台3-2-11
資料代：1000円
参加人数把握のため、ご参加希望の方は
ファクス(03-5875-5411)かメール
(kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp)でご連絡下さい。



参加申し込み書(Fax.03-5875-5411)

お名前

御連絡先 電話かファクスかメールアドレス

主催：NPO法人 ダイオキシン・環境ホルモン対策国民会議
〒136-0071 東京都江東区亀戸7-10-1 Zビル4階
Tel.03-5875-5410 Fax.03-5875-5411
Homepage: www.kokumin-kaigi.org Email: kokumin-kaigi@syd.odn.ne.jp

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	とびらプロジェクトフォーラム：美術館から社会的課題を考える
活動年月日	2018年2月3日
場 所	東京都美術館，日本，〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36
活動の相手方	とびらプロジェクトフォーラム 東京都美術館
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 東京都美術館と東京芸術大学が主催する「とびらプロジェクト」に参加し、鳥取県立美術館の基本計画等に生かす。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とびらプロジェクトとは？ 大谷郁（東京芸術大学特任助手 とびらプロジェクト・コーディネータ） ・アート・コミュニケータが語る自分のはたらき 聞き手：西村佳哲、稲庭彩和子 ・パネルディスカッション 「うまくいったり、いかなかったり」を支える人のつながりとは？ 日比野克彦、西村佳哲、森司、稲庭彩和子、伊藤達矢 ・オープンスペース・カフェ <p>【結果（成果）等】 「とびらプロジェクト」は東京都美術館と東京芸術大学、そしてとびラー（アートコミュニケータ：東京都美術館で自律的に活動するボランティア、任期3年）とが協働して行っているソーシャルデザインプロジェクト。任期満了後のとびラーも100人を超えた。 彼らの「とびらプロジェクト」の経験を生かして社会の中で独自に行なっている様々な活動を行っている状況の発表を受けた。美術館発でここまで社会に影響与える人材が作れることの証左を見、これこそが美術館をつくる意味だとつくづくと感じた。ぜひ、鳥取県立美術館に活かしたい。</p>
関連領収書番号	302-4

東京都美術館 × 東京藝術大学「とびらプロジェクト」フォーラム

アート・コミュニケーション奮闘記

うまくいったり、いかなかったり

平成30年2月3日(土)

第1部

13:00 開催のごあいさつ 伊藤達矢 敬

■とびらプロジェクトとは? ... 大谷都

■アート・コミュニケーションが語る自分のほたらき

語り手:アート・コミュニケーション

工藤阿貴・龜山麻里 / 山木薫・山崎奈々 / 木田代輔・小田澤直人・近藤乃梨子 / 小野寺伸二・小松一世

聞き手:西村佳哲・稲庭彩和子

— 休憩 —

■パネルディスカッション ... 日比野克彦・西村佳哲・森司・稲庭彩和子・伊藤達矢

「うまくいったり、いかなかったり」を支える人のつながりとは?

15:30 閉会

第2部

● オープンスペース・カフェ

時間 | 15:45 - 17:15

場所 | 交流棟2階 アーティストアタelierルーム、講堂

「とびらプロジェクト」の活動拠点を公開し、参加者同士がフランクにお話できるカフェを開きます。また、パネリストやアート・コミュニケーション「とびら」がみなさまからの率直な質問にも答え、普段の活動が分かる資料等も見ることが出来ます。

みなさまの御越しをお待ちしております!



日比野 克彦
東京藝術大学教授 とびらプロジェクト代表教員

個人での作品制作のみならず、より多くの人とワークショップ形式で地域の特性を生かした創作活動を行っている。受け取り手の感受する力に焦点をあて、社会で芸術が機能する仕組みを創出する。



西村 佳哲
働き方研究家 / リビングワールド代表 とびらプロジェクト・アドバイザー

つくる・書く・教える、3種類の仕事。建築分野を経て、ウェブサイトやミュージアム展示物、公共空間のメディアアーツづくりなど、各種デザインプロジェクトの企画・制作ディレクションを重ねる。著書に『自分の仕事をつくる』(晶文社 / ちくま文庫)、『かかわり方のまなび方』(筑摩書房)など。



森 司
アーツカウンシル東京 事業推進室事業調整課長
とびらプロジェクト・アドバイザー

人・まち・活動をアートで結ぶことで、東京のさまざまな魅力を創造・発信する「東京アートポイント計画」ディレクターをつとめ、まちなかでアーティストと市民が協働するアートプログラムをさまざまな分野と連携しながら実施している。



稲庭 彩和子
東京都美術館学芸員 アート・コミュニケーション係長

神奈川県立近代美術館を経て、2011年から東京都美術館のアート・コミュニケーション事業の運営に取組む。専門はミュージアム・コミュニケーション・デザイン。共著に『100人で語る美術館の未来』(慶応義塾大学出版会)等。



伊藤 達矢
東京藝術大学美術学部特任准教授 とびらプロジェクト・マネージャ

地域で行なわれるアートプロジェクトのディレクターを勤めるなど、多様な文化プログラムの企画立案に携わる。共著に『TOKYO1/4』が提案する 東京文化資源区の歩き方』(絶出版)など。



大谷 都
東京藝術大学美術学部特任助教 とびらプロジェクト・コーディネーター

東京藝術大学美術学部先端芸術表現現科を2014年に卒業。3年間のプロジェクトアシスタント経験を経て現職。在学時より組織を超えた人々の関わりに着目しながら様々なアートプロジェクト・イベントの運営に携わる。

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	教育シンポジウム in 東京 2018 (第 22 回) ～新学習指導要領に向けた授業改善～への参加
活動年月日	2018 年 2 月 10 日
場 所	東京都北区立王子桜中学校・王子小学校 (東京都北区王子 2 丁目 7 番 1 号)
活動の相手方	教育シンポジウム in 東京 2018 (第 22 回)
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 新学習指導要領が告示され、新年度から全面実施に向かっのスタートする。「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)、道徳の教科化が施行されるが、その「学び」とはどのようなものなのか、授業はこれまでと変わるのか」というテーマで開催されるシンポジウムに参加し、アクティブラーニング導入に向けての課題を探る。</p> <p>【内容】 【基調講演】 成熟社会に相応しい教育課程と新しい学習指導要領 合田 哲雄 (内閣官房人生 100 年時代構想推進室・内閣参事官 前文部科学省初等中等教育局教育課程課長) 【講演】 学習指導要領は進(深)化する 木村 孟 (独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 顧問・名誉教授) 【対談】 新学習指導要領をめぐって 木村 孟 (独立行政法人 大学改革支援・学位授与機構 顧問・名誉教授) 田村 学 (國學院大學 人間開発学部初等教育学科 教授) 【パネルディスカッション】 「主体的・対話的で深い学び」を展望する ナビゲーター 谷川 彰英 (公益財団法人 中央教育研究所 理事長) パネラー 山野 有紀 (宇都宮大学 教育学部 准教授) 吉本 恒幸 (聖徳大学大学院 教授) 根津 朋実 (筑波大学 人間系 (教育学域) 准教授) 宮本 信也 (筑波大学 副学長・理事、附属学校教育局教育長)</p> <p>【分科会② 道徳】 道徳科の実施を迎えて ― 道徳科の特質に基づく授業づくりと評価― 吉本 恒幸 (聖徳大学大学院 教授) 道徳科の特質に基づいた本校の実践について 上原 弘道 (荒川区立第三瑞光小学校 教諭) 齋藤 誠 (荒川区立第三瑞光小学校 主任教諭)</p> <p>【結果 (成果) 等】 アクティブラーニングについては参加者の教員に対し「これまでの授業と変わらない自信を持ってやってほしい」「大事なことは考える力をつけること」「道徳の評価は、内容ではなく授業に臨む態度」という言葉が印象に残った。とっとりけんの教育に活かしていきたい。</p>
関連領収書番号	302-6, 302-7

政務活動報告書(県外)

議員名 森 雅幹

活動事項	林活議連 和歌山県、三重県調査
活動年月日	2018年3月27-29日
場所	和歌山県(森林組合連合会 御坊共販所、) 三重県(三重県伊勢庁舎、)
活動の相手方	和歌山県(森林組合連合会 御坊共販所、きのくに中津荘、林業試験場)
目的・内容 ・結果等	<p>【目的】 林業の先進地である和歌山県、三重県を林活議連として調査し鳥取県政に生かす。</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・和歌山県 森林組合連合会御坊共販所 和歌山県御坊市塩屋町北塩屋 280-18 西晃史(日高町企画政策課定住促進室長) 林地残材を木質パウダーに加工しボイラー燃料に供給 地域の中でエネルギーの地産地消進めている 灯油の半分の熱量のため 灯油 1L (92円) = 木質パウダー2Kg (92円) ・きのくに中津荘 (日高川町高津尾 1049) 藤井様 木質パウダーボイラーは特注で 800万円+設置工事費 ・和歌山県林業試験場(和歌山県西牟婁郡上富田町生馬 1504-1) 井戸聖富 和歌山県林業試験場木材利用部長 ビニールハウスを用いた「太陽熱利用木材乾燥」 この施設により 15%までの乾燥に 40%時間短縮効果がある。 和歌山県の製材事業所は 117 あるが多くが中小、熱乾燥施設を持たないため 研究開発した。現在 2 事業所で導入済み。 広葉樹の板材乾燥に取り組んでいる。乾燥初期の急激乾燥が割れを生むため、乾燥初期にミストを出して、湿度調整がポイント。 ・三重県伊勢庁舎(伊勢市勢田町 628 番地 2) 前田佳男 三重県伊勢農林水産事務所所長 低コスト造林 皆伐時の再造林にこれまで 4000 本/ha を 2000 本/ha にすることにより造林コストを抑える。 間伐収入が減るが育臨経費が減るため、結果的には収支は+10 万円程度になる。 <p>【結果(成果)等】 いずれも注目に値する取組みで、ぜひ鳥取県林業政策に活かしたい。</p>
関連領収書番号	303-7, 303-8, 303-15